

「都」構想協議が紛糾

大阪散会動議採決されず

大阪市を廃止・分割する「大阪都」構想の



会長の散会宣言でいっせいに退席する維新議員 23日、大阪市役所

制度設計を話し合う、第19回大都市制度（特別区設置）協議会（法定協）は23日、大阪市役所で開かれました。公明党が会議の冒頭に、協議会の散会を求める動議を提出。維新の今井豊会長は採択せず、採決を求める公明、自民、共産各党と、採決を拒否する維新とが激しく対立し、紛糾しました。その後、法定協は休憩を挟み、動議を採決しないまま会長が散会を宣言しました。

公明党は、前回の法定協で「会長の独断によって一方的に開催が通知されるような異常事態は二度となきよう求めた」が、「忠告を完全に無視して、強引な手法で開催された。断固抗議する」と述べ、法定協の正常化を求め散会を要求しました。

日本共産党の山中智子大阪市議は「動議の採決をしないのは言語道断だ」と述べ、「会長の横暴は目に余る。法定協を私物化するような知事言いなりの運営を改めて、正常化に努めるべきだ」と話しました。